

日本ペンテコステ協議会

【事務局】

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL.03-3918-5935 FAX.03-3918-0474

特集

「仕える」

3・11 東日本大震災復興支援



代表あいさつ

「日本の靈的復興のために
さらに祈り、ともに働く」



第一ペテロ4章7、8節

日本ペンテコステ協議会
議長 細井 真

万物の終わりが近づきました。ですから、祈り
のために、心を整え身を慎みなさい。
何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。
愛は多くの罪をおおうからです。

大取穂の時代に大宣教命令を受けている恵みを覚えて、身の引き締まる思いです。

さて、3・11から一年以上たった今も復旧の見通しすら立たない場所も多くみられます。地震、津波、原発と重複した災害が被害を大きく、重くしてきました。そのような中でもペンテコステ派諸教団諸教会の被災地での救援支援活動は、それぞれのところで大きな働きを担ってきています。いくつかの地域では、人々との大変良好な関係が築かれており、より積極的な宣教活動が開始されていると聞いています。私たちはますます互いに手を携えて神の愛を届け、聖靈さまによる力強い働きが現される教会が建てられるように祈り求めていきたいと思います。

それにもしても、今回の出来事は私たちの社会や経済、そして人々の考え方を一変させてしましました。絶対に破られることがないと言っていた防潮堤がいともたやすく壊され、絶対安全と言われた原子力発電所が被災し、いかに危険なものであるかを露呈してしまいました。電気のない都会の生活がどのようなものであるかも皆が肌で感ぜざるを得ない状況になってしまいました。

私たちは このような 人々が揺り動かされ 靈的に飢え渴いてい 時代に、日本の靈的復興の時が来ていることを覚えて祈り、神の愛と救いが人々にもたらされるよう努め、励もうではありませんか。

日本フォースクエア福音教団における東日本災害復興支援



日本フォースクエア福音教団
総理 佐藤 成紀

財務・災害支援担当理事 小坂 叡華

このたびの東日本大震災に被災されました方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。



I) 教団の東日本震災復興支援の取り組み

当教団は北海道から沖縄まで5教区に分かれており、日本人教職の他に、アメリカ人、ブラジル人、韓国人、ペルーアン、イギリス人、フィリピン人が各教会で奉仕している。グローバルな教団の特徴を生かして下記の3方向での活動を奨励し、それを教団がサポートする形をとっている。

- 1) それぞれの教会の特徴を生かした活動を行う。音楽、通訳、人材派遣など。
- 2) 初期の段階からクラッシュジャパン、サマリタンパース、DRC net、ホクミン等のクリスチヤン支援団体と協力して活動する。
- 3) 海外のフォースクエア教会と協力して支援活動を行う。

支援活動費

教団教会以外の米国、香港、ニュージーランド、イギリス、ヨーロッパ、アジアから祈りと献金が捧げられてきた。これらの支援金は各教会からのボランティアチーム派遣の旅費補助（教団1/3、個人1/3、教会又は教区1/3）。又、特に重点的に活動を継続している教会には定期的に活動費及び物資購入費用などを支援している。

II) 初期活動

3/11 2時46分震災勃発後直ちに、被災地区を調べ大洗インドネシア教会、福島ニューホープチャ

ペル、仙台シオン教会が対象であったが、被害状況は軽度であり直接の被災者が出てこなかったことを確認した。

3/12 教団各国からのお見舞いメールを受け、祈りと支援金の呼びかけを依頼した。

3/14 小坂災害支援特命理事より震災時間を見て午後3時に同刻・一致の祈りを各教会に要請、現在も継続している。佐藤総理より日本フォースクエア福音教団としての災害支援方針を発表し、教団ホームページに3ヶ国語で掲載する。



-
- 3/18 東日本大震災救援キリスト者連絡会（DRCnet）の呼びかけに教団として加盟。
4/29 宮城県、岩手県でのボランティア活動の派遣、物資支援を開始した。
6/13 米国から 10 数名の牧師が被災地訪問調査、7月以降、米国 8 教会がチーム派遣を開始し現在も続いている。



III) 現在の支援活動地域、その他

岩手県／宮古・田老町、宮城県／気仙沼、岩手県／大槌町、野田村クラッシュジャパン & サマリタンパース／スタッフ派遣、東北 6 県コミュニティ FM ラジオ「小坂忠の ONEBODY」放送
福島県／郡山、二本松、三春、南相馬、宮城県／岩手県のミュージックケア、教会支援

IV) 今後の展望

長期の支援を考慮し、国内ボランティアチーム派遣、被災者への心の癒し、子どもケア、ミュージックケア、モバイルカフェ、バイブルクラス、教会開拓支援、海外チーム受け入れ、等の方法によって被災者が希望と生きがいをもてるよう仕えていく。「忘れないでください」という被災地の叫びを伝えなければならない。そのために教団の活動ベースを置くことや、99% の未信者に向けてのラジオプログラムを継続的に流し続け、現地の活動や教会と繋げる役割に期待している。被災地域では教派を越えた教会協力による復興支援ネットワークが各県毎に立ち上がっているため、諸団体と情報交換をしながら東北の救いとりバイブルに仕えたいと願っている。



東日本災害復興支援

シオン宣教団
監督 松本 光弘



シオン宣教団 金沢グレイスチャペル牧師
辻本 真悟



「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。
しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」
伝道者の書三章十一節

主イエスキリストの御名を崇めます。

2011年三月十一日、私はその日50歳の誕生日を迎えました。あの福島第一バプテスト教会の佐藤彰師も同じ日54歳のお誕生日を迎えたと後日書物より知りました。日本を震撼させた3.11が忘れようにも忘れない日となりました。

今まで経験したことのない感情の揺さ振りを感じ、いてもたってもいられなくなり、とにかく東北の地へと向かいました。石巻の溝の泥出しから始まり、遠野を拠点として活動しておられた香港宣教師のグループと合流して、陸前高田、大船渡、釜石、山田町、宮古など何度も東北の地に立つ事となりました。

行きたびに避難所や仮設住宅をきめ細やかに回り、必要をアンケートにとり、それを元に物資を届け、手作りで椅子や机を届けました。出来うる限り一人でも多くの方々の、話し相手になろうと仮設住宅で真剣に耳を傾け、一緒に涙を流しました。

奥様を津波で亡くされた年老いたご主人の為に、ささやかな誕生パーティーを開くことができ、とても喜んでいただきました。ある時は、編み物教室を開催し、ギターを弾き、賛美だけでなく、懐かしの歌謡曲と一緒に歌い、年末にはクリスマスパーティーも開催することができました。

しかし色々なことをすればするほど自分たちのしていることがあまりにも微少で霧のごとく感じられ、立ち向かっている悲惨な現状が途轍もなく巨大であることに、しばしば胸が割かれそうになり呆然としてしまうこともあります。それは私が神学生だった時、アフリカ宣教の地で、飢餓地に食物を配った時に感じたものに似たものでした。「本当に役に立っているのか、もっと何かできないのか」、という歯がゆい思いで葛藤を覚えた事に似たものでした。

福音宣教に使命を持ちながらも「兄弟が困っている時に憐みの心を閉ざさず、行いと真実をもって愛し合う」の信仰に立ち、できうる限り援助行動を行ない、誠心誠意一生懸命役にたてるようなことは何でもするとの使命で行いましたが、しかし行きつく所はただ一つ、我々が最も用いられるのは「福音を伝える」ことだと殊更に改めて強く刻まれました。

多くの教会団体が東北の地で開拓を始められて、救われる方々が起こされている。ここにのみ本当の希望があります。私達教団の教会もチャリティ・ゴスペル・コンサートを開催し、献金を募り、東北の色々な教会を助けるために捧げています。

金沢聖書道展の関係者が被災された方々を覚え、心を込めて書いて下さった聖句を、仮設住宅に配布させていただきました。私達の働きは小さなものかもしれません、すべてのことが神の御手の中で必ず益となることを信じます。なぜなら「神のなされることは、すべて時にかなって美しい」からです。アーメン。



▲仮設住宅に、聖句書道を配布



▲チャリティ・ゴスペル・コンサートを開催

仕える

日本オープンバイブル教団
代表 菅原 亘



2011年3月11日午後2時46分、東日本を襲った歴史上最大規模の地震により、東北地方を始め日本全体に大きな傷跡を残しました。震災、津波、原発事故の3重苦の中で復興に向けて歩み始めていますが、未だに被災地には瓦礫の山が積み上げられたままです。

更地ばかりが目立ち、復興再建の道筋が描けず、国の行政と地方自治体と住民の意思の疎通もうまく機能していないのも復興を遅らせています。また、原発事故周辺住民は自分の故郷を追われ、住みなれない遠隔地に疎開をさせられている状況です。いつ、戻れるかの目途も立たず、希望も描けず、確実に時間だけが虚ろに過ぎ去っています。復興財源も乏しく、政府の意思決定の遅滞、勢いに欠けており、神戸の震災の時よりも遙かに困難な状況のように思えます。また、東北地方特有の過疎地、広い地域、高齢化などが復興の早期回復を遅らせています。神戸の震災復興の場合は、狭い地域であり人口も密集しており、大都市特有の効率化された復興計画が描けることが出来ました。しかし、今回の震災復興はそうではありません。特に原発事故処理は世界中から注目されており、日本の科学技術評価にも目が注がれています。結果次第では日本ブランドの崩壊もあるかも知れません。そんな中で世界の方々が震災復興のためにお手伝いに来てくださり誠に感謝なことです。クリスチャン関係団体でもボランティアで多数来日して下さっております。



17年前の神戸の時もそうでした。当時を思えば本当に心強く思い、感謝の心で一杯がありました。

クリスチャンとして、ひとりの人間として、このような国難や災害の時に何をなすべきかを考えるとき、ひとりの力は小さいものであるが、どんなことでも小さなことから始まる事を思う時に、イエス様が言われた「空腹であったときに、食べる物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸でいたときに着る物を与え、病のときに見舞ってくれたこと、牢にいたときに訪問してくれたこと」の聖句を思います。

クリスチャンたちが何の変哲もない日常のことの中で、小さな親切、優しさ、気配り、仕える心の実践こそ大切な行為であることをイエス様は教えておられます。

「なすべきことをなす」それが仕えることそのものであります。

イエス様は十字架の上で最高の愛をお示しになられました。



至高の愛がそこにはあります。私たちは先ず、仕えることの実践を小さなことから、出来ることから始めることが大切なのです。さあ！聖靈様と一緒につながりながら仕えて参りましょう！私たちの教会でも義援金を募り、必要な教会へ献金を送り、現地での手伝いもしています。

教職者、ユース、信徒、様々な形で少しでも応援が出来たことを嬉しく思っています。小さな働きですが、その質は気高いものであると確信いたします。アーメン。



単立ペンテコステ教会フェローシップ (TPKF) による東日本大震災支援活動



単立ペンテコステ教会フェローシップ
代表 中見 透

2011年度、TPKFによる東日本大震災支援活動を紹介させていただきます。

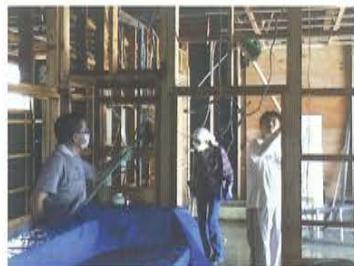
- 4/19-20 第1回視察 物資搬入
- 5/2-5 宮城県登米市サマリタンズパース
ベースキャンプ立ち上げ
- 5/17-20 第2回視察 宮城県、岩手県、福島県
- 6/6-6/11 岩手県住田町サマリタンズパース泥出し等
- 6/12-14 宮城県南三陸町 特別養護老人ホーム慈恵園掃除
- 6/27-28 福島県いわき市グローバルミッションセンター泥出し等
- 7/25-30 福島県～宮城県 掃除、泥出し等
- 7/25-31 岩手県住田町サマリタンズパース泥出し
- 7/29-8/5 福島県いわき市にてボランティア、岩手県サマリタンズパース泥出し
- 8/8-13 福島県～宮城県 掃除、泥出し
- 8/25-27 宮城県登米市サマリタンズパース石巻市泥出し
- 8/30-9/1 TPKF三役による現地視察、訪問、献金 岩手県、宮城県、福島県
- 10/3-6 3.11 いわて教会ネットワークにて教会カフェによる仮設住宅訪問等
- 10/13-10/15 岩手県住田町サマリタンズパース 泥出し、水田汚泥除去など
- 10/26-28 ノルウェー宣教団体総裁現地訪問、泥出しボランティア
- 11/9-12 宮城県石巻市泥出し、仙台ゴスペルフェスティバル奉仕

これまで TPKF 義援金窓口に寄せられた義援金

TPKF 諸教会より 4,361,613 円、海外より 10,798,003 円（アメリカ、ノルウェー、フィンランド、ヨーロッパ・ペンテコステ、インドネシア、香港、バンガラディッシュ）（2011年10月12日現在まで）

第1回義援金配分 合計 260万円

NRA50万円、拡大宣教学院50万円、CRASH JAPAN50万円、いわきグローバルミッションセンター50万円、福島第一聖書バプテスト教会10万円、ボランティア・物資購入資金50万円



第2回義援金配分 合計 690万円

東北ヘルプ50万円、NRA50万円、パーカスドリブン・ジャパン50万円、FUKUSHIMAいのちの水計画50万円、CRASH JAPAN50万円、サマリタンズパース50万円、宮古コミュニティチャーチ10万円、陸前高田キリスト教会10万円、気仙沼聖書バプテスト教会10万円、拡大宣教学院10万円、いわきホームチャペル10万円、いわきグローバルミッション10万円、現地視察30万円、冬季物資購入予算100万円、ボランティア活動予算200万円



福島県に線量計10台寄贈40万円



▲仮設住宅訪問



▲教会カフェ



▲ベースキャンプの立ち上げ

仕える

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
理事長 細井 真

東北復興実務委員長 本田 勝宏

昨年3月11日に起きました東日本大震災の復興支援について、私ども日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団が行ってまいりました復興支援についてご報告いたします。



震災直後の3月12日に災害対策本部を教団本部に立ち上げ、翌週には支援物資を運ぶ第一陣のボランティアグループを派遣いたしました。

震災直後より、青森、仙台、泉、郡山、いわきの教会を中心に、これまで被災者支援を行ってまいりました。現在は、釜石、東松島、郡山に支援センターを置き、それぞれに担当牧師と担当理事

を置いて支援を続けています。

震災直後より、国内、海外のアッセンブリー教団などから多額の支援献金が寄せられ、また、多くのボランティアの方々が被災地を訪れ、支援活動を行ってまいりました。

災害対策本部を設置して間もなく、Facebookに「日本アッセンブリー大震災支援ネットワーク」のグループを立ち上げ、さらには教団HPにリンクを張り、教団災害対策本部公式ブログを立ち上げて被災された現地からの情報を発信することができました。このブログは、日本語だけでなく、英語に翻訳され、英語ページもアップいたしました。これにより、国内だけではなく、海外の主にある兄弟姉妹にも、被災地よりの情報、必要としていることを素早く届けることができました。

東松島支援センターでは、現在、定期的に「お茶のみ会」という催しを行い、聖書の話しや様々なプログラムを行っております。また、炊き出しもほぼ月1回のペースで行っています。

釜石支援センターには、青森から澁谷牧師が隔週の割合で行って支援・復興活動を行っております。主に、仮設住宅にすんでおられる被災者の為に、フードパックやライフパックを配るという支援を行っております。

郡山支援センターは、震災直後から原発事故で避難してきた方々への支援・救援活動を続けてきました。教会のすぐ近くにありますビッグパレットに多くの避難されて来た被災者がおられましたので、炊き出しや子供たちのケアなど、多くの働きをしてきました。

今は、仮設住宅や、借り上げアパートに住む人たちへの生活スタートキットやフードパックなどの配布を行っています。

また、これまでに3つの支援センターを通して、夏は扇風機を配布し、冬はストーブと灯油を配布させていただきました。

これまで私ども日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団は、現地の教会と支援センターを通しての復興支援活動を物心両面から支えることによって、被災者に仕えてまいりました。これからも同じように、被災者に仕えていこうとしています。

以上、簡単ではありますが、ご報告いたします。



▲釜石市にてストーブの配布



▲ライフパック



▲東松島市にて炊き出し



▲東松島市にて物資の整理



▲郡山市にて炊き出し

震災支援一仕える

イエス・キリスト福音の群
代表 永井 信義



私たちの群が中心となって運営する拡大宣教学院、また、群れの東北地区の宣教の出発地である東北中央教会は、昨年2011年3月11日に発生した東日本大震災では震度6強という揺れに見舞われました。ライフラインがストップする中ではありましたが、震災直後から国内をはじめ、世界中から救援物資が届けられてきました。それらの物資を特に津波によって甚大な被害を受けた地域に届けることから働きはスタートしました。

さまざまな救援物資は毎日のように届けられましたので、学院関係者全員でその整理と運搬にあたりました。物資は建物の中だけでは納まらず、一時は駐車場に張られた四つのテントにも収納され、そこから被災地へと届けられました。

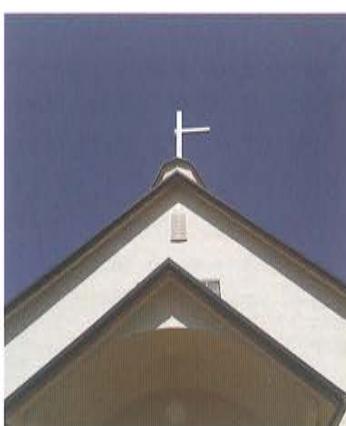
必要なものを必要な人に届けることは一つの教会、団体では不可能です。石巻、気仙沼の地域の教会の協力を得、「かゆいところに手が届く」ような支援を心がけました。

また、当初から国内、そして、世界各地からボランティアが駆けつけてくださいました。これまでに1200人を超える方々が長期、短期に渡って滞在、現在もボランティアを通しての働きが継続されています。

さらに、震災支援の働きは当初からさまざまな団体との協力によって進められてきました。チャーチズ・ヘルピング・チャーチズ(CHC)、オペレーション・ブレッシング、サマリタンズ・パースなどの海外からの支援団体だけでなく、地元のボランティア団体、NPOなどとも連携し、現在もその活動を継続しています。特に、石巻市の雄勝地区では、小中学校や漁業関係者に関わることができたことは、復興や自立支援とともに教会未設置地区への宣教へとつながる働きとなると期待しています。



▲ 石巻市雄勝町の獣師へ



▲ 東北中央教会の十字架



▲ 拡大宣教学院に届けられた物資の山

東日本大震災、大津波、原発事故とボランティア活動



日本ペンテコステ教団
代表役員 榮 義之

昨年3月11日、東北地方を襲った大震災は大津波とともに、福島原発事故まで誘発し、まさに世の終わりとも思える惨状を投げかけました。

直ちにとりなしの祈りが始まり、生駒聖書学院を中心にボランティアが、3月より毎月のように送りだされました。

現地で寝袋持参での泥出し作業もありましたが、気仙沼や石巻、いわき市や仙台等でも精いっぱいの活動ができました。

特に、昨年秋のいわき市へのボランティア活動は、熊本県に拠点を置くNPO法人九州ラーメン党とのタイアップもできました。

昨年5月石巻市、11月いわき市、震災一周年には石巻市牡鹿半島へ、九州とんこつラーメンの炊き出で、現地の人々に喜ばれました。福音文書も1000冊以上受け取ってもらえて、救いの業も広がり続けています。

それ以外にも各種団体に支援金、義援金をささげる恵みも与えられ、なおも東北ボランティア継続と支援活動を継続し祈りつつ教団です。

被災地を思うとき響く主のみことばがあります。

「さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を過ぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです」

すると、その正しい人たちは、答えて言います。「主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まさせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。また、いつ、私たちは、あなたの病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか」

すると、王は彼らに答えて言います。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」

(マタイ 25：34-40)

さらに福音の広がりを願いながら、東日本諸教会と地域社会の復興とリバイバルを祈り続けています。



仕える、僕（しもべ）の心を持つリーダーは

神の家族キリスト教会
代表役員 水野 明廣



ただキリストの福音にふさわしく生活し、福音の信仰のために、困難にたじろぐことなく、苦しみさえも賜ったものだと受けとめて、たえず福音を広めるために貢献していく姿勢を持っている者です。また、自分がキリストの恵みにあずかれた事を何よりも喜び、キリストの福音の恵みを本当に理解し、楽しみ、感謝でき、どんな状況の中でも、いつでもどこでも福音のために、と肯定的に前向きに応答できる者でもあります。

東日本の震災の状況を知ってから、カナダに住み心地の良い家と仕事を持つという物質的に恵まれた生活を離れて、自費で来日されたご夫婦がいます。彼らは来日以来、被災された方々にずっと寄り添って、仕える姿を見せてくださいました。仕える僕の心を持つリーダー（彼ら）のおかげで、人々はイエス様に引き寄せられました。聖靈も働いておられるので、人々がキリストの恵みの福音を信じて救われるという嬉しいニュースが伝えられ、ただ主イエス様に感謝で一杯です。



▲ 気仙沼にて

確かに聖靈は仕えるために、与える愛の器を通して、聖書の通りに働いておられます。イエス様は、ヨハネの福音書14章26節で「……聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」と語られ、また同福音書15章26節では「……真理の御靈が来るとき、その御靈がわたしについてあかします。」とも語られました。ですから、聖靈は人々の回復と救いのために、福音の宣教に心を碎く者に、そして、福音を証したくてたまらない器に必要な賜物を与えて、キリストの福音が宣べ伝えられるために格別に働いてくださいます。今や聖靈は日本人の救いの時だと励ましながら、助け主として、仕えることを喜

びとする者にいのちの救いの報酬を与えておられます。被災者に仕える者こそ、キリストの福音に最もふさわしい生き方を実践している方々です。



▲ 気仙沼にて

イエス様は御自分を指して、僕の心を持つ良い羊飼いだと紹介されました。マタイの福音書11章29節の「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。……」、更に詩

篇18 篇35節から36節では、「こうしてあなたは、御救いの盾を私に下さいました。あなたの右の手は私をささえ、あなたの謙遜は、私を大きくされます。あなたは私を大またで歩かせます。私のくるぶしはよろけませんでした。」とダビデが語っています。

まさに、仕えるリーダーであるイエス様に習い、人々の救いと回復に喜んで仕えるなら、もっともっと聖霊は働いてくださいます。



▲ 仙台若林地区、瓦礫撤去



▲ 仙台宮城野地区にて



▲ 仙台若林地区にて

東日本災害復興支援



日本ネクスト・タウンズ・ミッション
代表 三坂 正治

震災直後、道路事情やガソリン不足等混迷の極みの中、緊急通行許可証を取り被災地に向かって出発しました。長期的な取り組みをするために、どのような支援の方法が最も良い助けになるのかを把握する必要があると思ったからです。特に支援センターになっている教会の活動は、想像を超える労苦が続いているのに言葉を失いました。NTMでは東日本震災復興支援 NTM協力会を発足させました。炊き出し、ソーシャルワーク、教会堂建築支援、支援センター設立支援等補助的役割を続けています。今回は、特にいわきに継続して出向いた木谷師からの報告です。

アガペファミリーチャーチ 牧師 木谷直也

日時 2011年3月20日～24日



① 要請と準備

グローバルミッションの森章先生の要請により、緊急救援物資をとどける使命が私たちに与えられました。しかし、当時

{3月17日}は個人での救援活動は許可されておらず。法人であることが条件でした。三坂先生にNTMの名前で申請する事を快諾いただき、さらに資金的援助もおしまないからたくさん持って行くように励ましてくださいました。

最終的には4トンのトラックに物資を満載して届けることが出来ました。奈良県の9つの教会からも直接トラックまで物資を積み込んでくださいました。この事件がなかったら協力して働く事もなかつたでしょう。被災地のために何かしたいとの願いが教派、教団、主義主張の壁を越えた瞬間でした。

奈良市、大和郡山市のホームセンターや、電気屋さんを駆け巡り、必要な物資をそろえて行きました。しかし、なかなか思うように物資も集まらず、又被災地の必要も日々刻々と変化しているようでした。出発2日前になって、炊き出しをしたいので、カセットコンロ・ボンベと野菜を要請されました。当時、奈良においても、乾電池やカセットコンロが品切れ状態でした。野菜も一人で買い占めもらうと困るといわれました。そこで、野菜の方は市の卸売市場に直接買いにいく事になりました。

又、軽油 200ℓ、灯油 800ℓ ガソリン 80ℓ {携行カンがこれだけしかありませんでした。} 消防署と警察署での話し合いは責任問題の事もあって難航しました。

3月20日午後4時に警察署から許可がありました。出発し21日の朝6時30分に無事に到着できました。とりなしの祈りをしてくださった兄弟姉妹に感謝いたします。

② グローバルミッションの働き

ミッションのあるいわき市は福島県の南東端に位置し、南端は茨城県に位置します。人口33万4775人、世帯数13万、原発まで40キロの地域です。

1) 地震発生直後の状況

巨大地震、津波、原発事故の発生によって、市の職員の混乱ははなはだ大きく、市長さんも自分を守るために県外脱出計画を立てていたそうです。災害の規模が大きすぎて、NPO、NGOが入る事を躊躇していたのです。

被爆の恐れから、岩手、宮城に集中してしまったのです。福島県いわき市のボランティアセンターの設立、組織、運営も遅れてしまいました。その時、神様が教会にその仕事をするように召してくださいている事がわかったのです。多くの働き人が、原発を恐れて一時県外や海外に退去する中で、永遠の命を確信した牧師たちやクリスチャンたちが救済のために祈りだしたのです。

2) とどまり活動する理由

救援物資が必要なところに届いていない状況がありました。

行政もどうしていいかわからないでいました。責任のなすりあいをしていても仕方がないし、非難や批判をしても仕方がないのです。

教会は、愛と赦しの実践によって、行政の手や足になって救援物資を必要な所に届ける役割を担うようになりました。

平等、公平という事は大事な事ですが、その事が仇となって働きが一向に進まないのです。組織を作り、会議を開き、許可をもらい実行する。

今にも死にそうになっている人々を助けるにはあまりにも遅い対応なのです。そこで、教会は地域住民を訪問して、必要を見極め、すぐにその必要を満たして行くという方法を実践したのです。



▲ 2011年5月いわき市訪問

情報を収集してみると、病院や養護施設でさえ物資が届いていない事が明らかになったのです。

3) 現状

今は行政の方々の信頼を獲得し、市の職員たちが教会に知恵と助けを求めてくるようになりました。原発の恐怖から誰も行きたがらない地域の必要を知り満たすために、教会のボランティアは今も活動しています。



4) 今後の課題

心のケアが大切になると思います。簡易トイレ、おふろを設置して、炊き出し等をしながら、一人一人と交わり、お話を聞き共に泣いてあげることの出来るボランティアが必要になってきています。慰安コンサート etc.



▲ 2011年5月いわき市訪問

5) 緊急とりなしの要請

イスラムの人々が多数入り込んで、宗教活動が始まっています。すべての活動を通して主イエスキリストの栄光だけが現されますように！

24時間の祈りと賛美も IHP の助けをかりて始まっています。



被災地支援



日本チャーチオブゴッド教団
監督 八束 選也

1. 教団一つになって仕える

日本中の誰もが未曾有と称する事に全く異論はない東日本大震災に対して、被災当初から教団は被災者の受け入れと、被災地でのボランティア活動・物質支援を行いました。私たち9の教会が力を合わせることにより、祈ること、捧げること、そして、恵みによって現地で支援活動に励むこと、キリストの身体として役割を共有することができました。

1) 被災者受け入れのために

各教会で捧げられた尊い義援金が支えとなり、フィリピン大使館を通して依頼を受けた述べ30名のフィリピーノ被災者を約2ヶ月にわたり受け入れました。必要物資提供者、宿泊管理者、料理の

賄い者、健康管理など信徒による様々な働きがありました。母国への帰国、首都圏その他での再就職、日本に住む親戚を頼つて転居とすべての方々が人生の次の段階へと導かれていきました。

2) 被災地支援のために

岩手県遠野市に教員の親戚の家が支援の拠点として与えられ、各教会からの有志編成チームによる継続的な支援活動を行いました。小学生から壮年、婦人の世代が一つになって作業する内容は、泥撒きから始まり、炊き出し、マッサージ、復興の為の菜の花プロジェクト参加、被災者の庭掃除、ユースとのスポーツ交流など多岐に渡りました。



2. 同じビジョンに立って仕える

昨年一年間を通して、当教団はだんだんと大槌町に導かれていることを感じ、大槌町に焦点を当て支援を行ってきました。そして、さらに淀橋教会のアガペーCGNはじめ、多くのキリスト教会とクリスチヤンたちが長期に渡る支援活動により築きあげてくださった現地の方との関係の中に、当教団も加えていただきました。現地では、キリスト教会に対する良い評判が築かれつつあることを感じます。

今、私達は教団をあげて大槌町に支援センター建設、その先には教会建設というビジョンに向かっています。昨年の震災発生時は起こった出来事を容易に受け入れることが出来ず、悲しみに沈みましたが、教団が同じビジョンに向かって仕えて行く中で、教団の諸教会の中にまだイエス様を知らない方に対する宣教の情熱が増し加わっていると感じます。これは、各教会の一一致した働きによって、福音が被災地に届く事を願って仕えて来たことによるものであり、また、祈りと捧げ物によって支援活動を支えてくださった教団諸教会の信徒の方々がおられたことによるものです。ですから、私達教団は今後も主イエス・キリストの光が現地に届けられるという、同じビジョンに立って仕え続けたいと願います。

(今年5月、主の恵みと導きの中で大槌町に物件が与えされました。新しい復興支援の拠点が用いられ、多くの方に救い、解放と癒しが成されるように、そして将来はその場所がキリストの福音を伝える拠点としての教会となるようどうぞ覚えてお祈りください。)

